

〈保健体育〉

心を揺さぶり生きる力を育む性・エイズ教育の研究Ⅱ

— 演劇ビデオの活用と実践事例の紹介 —

*

比嘉正央

**

宜保 久美子

砂川 龍馬

Ⅰ テーマ設定の理由

2008年12月の沖縄県の発表によれば県内のH I V感染・患者数総計146名で、人口比率でも東京都に次いで2番目に多い。また、この1年の発見者数の約8割を若者が占めていることがわかった。

2006年に県教育委員会が児童・生徒・教職員・保護者を対象に行った「性に関する意識調査」からは、中学生への設問で「性交をすることをどう思うか」の問いに33.2%が「お互いが好きであればいい」と答え、32.8%が「その時になって」と回答。約7割が肯定的な考えを示している。

このような子供たちの性に関する意識と行動の変容は、社会的に蔓延するH I Vウイルス等の性感染症にたやすく感染してしまう危険につながっていくと考えられる。またそれは、計画性のない妊娠、中絶などにもつながることがあり、その意味でもこの問題は「緊急且つより重要なもの」と言える。

しかし、教育現場において、生徒らにこの問題を「自分のこととして捉えさせ、より良い行動選択につながるための手だてづくり」に多くの教師が苦悩している。その原因の一つとして、人間同士の有機的つながりが衰えた今日の社会において、若者の社会帰属感の衰え、孤独感や自分が価値ある人間と思えないなど様々な「症状」が生じていることがあげられる。また、人間的つながりには、情報や規範、価値観、心などを伝える働きがあるが、それらが伝わって来ない状態に若者は置かれている。性行動を助長させる情報は容易に入手できるが、必要な正しい知識や価値観を伝える働きが乏しくなっているのである。このことに関し木原雅子(2006)は「子供の望ましくない性行動の背景には、家庭内の不調和や自尊感情の低下、目標や希望を持っていない等の内面の問題が潜んでいる。」と指摘し、家族、学校の先生、周囲の大人、若者同士の人間的つながりの衰えが影響を与えていることを示唆している。

子供たちが「生きる力」を獲得し、自らの夢や目標に向かい、より幸せな人生を歩んでいくためにも、この学習に真剣に向き合い、自分の将来を見据えながら考えていくことが強く求められる。

この研究はこれまで、小・中・高の演劇教材などの教材の開発を中心に継続して進めてきた。子供の心を揺さぶり内面に訴えかけながら、自ら考え行動に結びつける学習過程を重視したものである。今回は特に、中学校において導入に演劇教材を用い、その後のより有効な学習活動を紹介する。

〈研究仮説〉

性・エイズ学習において、導入に心を揺さぶる演劇ビデオを鑑賞することで、意欲関心が高まり、自ら学ぶ姿勢が培われるであろう。

Ⅱ 研究計画

1 心を揺さぶる導入の必要性

性・エイズの授業において一番の課題はそれを「いかに自分の問題として捉えさせることができたか」ということである。そのために例えば、深刻な状況をデータで示すことにより危機感を持たせる手法があるが、ここでは、H I V感染者の現在置かれている状況や様々な人権問題を彼らの苦悩や悲しみなどの内面に焦点を当てていくことで、生徒の心を揺さぶっていく。悲しみや感動に生徒は敏感に反応していく。学習意欲の低い生徒でもその感性を刺激することで学習への動機付けをはかることができる考える。

2 エイズ教育における人権教育の必要性

林達雄(2005)は各国のエイズ対策の事例から「エイズの恐怖をあおるのではなく、恐怖を取り除く努力をした社会だけが対策に成功している。人を否定するのではなく、肯定し受け止めた国だけがエイズを減らす」と述べ、エイズ対策における人権教育の必要性を述べている。

つまりこのことは、エイズ教育の本質を説いている。感染症からの予防という知識的側面のみならず、社会的感染を抑える一員として人権教育を合わせて行っていくことの必要性である。

*沖縄県立総合教育センター指導主事

**那覇市立首里中学校教諭

***那覇市立城北中学校教諭

確かな知識の獲得と豊かな人間性は「生きる力」を育てる大切な要素であり、これらが、生徒のより良い行動変容にもつながることが期待できる。

3 ハンセン病とエイズを関連づけて学ぶ意義

この学習の導入は我が国のハンセン病に関する人権問題を中心に進めていく。ハンセン病はエイズと同じ感染症であり、感染力が弱いという共通した側面を持っている。それにもかかわらず、病者は隔離政策などの想像を絶する差別・偏見を受けてきた。病気そのものよりも社会からの偏見で多くの苦しみを受けてきたのである。沖縄のハンセン病療養所である国立沖縄愛楽園の証言集をもとに、生徒に自分たちの住むこの地で「現在にまで至る人権侵害の事実」を知らせ、エイズの問題と照らし合わせて考えさせたい。

(1) 演劇ビデオ「光の扉をあけて」の活用

この演劇ビデオはハンセン病とエイズに焦点を当てた創作劇である。NPO法人HIV人権ネットワーク沖縄の小学生から大学生までが中心となって演じたもので、2008年度年には厚生労働省主催のイベントで岡山県や大阪府でも上演された。物語はHIVに感染した女子高校生がハンセン病回復者のおばあさんとの出会いからその人権侵害の事実を知り、それでも懸命に生きるおばあさんの姿勢から励まされ、立ち直っていくという展開になっている。この演劇を鑑賞した生徒のアンケートから95%が「感動した」「エイズ学習への関心が高まった」ことがうかがえた(表1)。

表1 演劇鑑賞の主な感想(中・高校生)

☆エイズやハンセン病に罹っているからって差別やまちがった考え方はしたらいけないと思った。また、色々な事について正しく学ばないといけないという事もわかったのでよかった。これからはエイズの知識を蓄えていきたいと思った。きっと俺は、もう差別をしないと思います。
☆HIV感染者への差別を無くしていい世界をつくっていききたいと思った。そしてハンセン病の時みたいな過ちを二度と犯してはならないと思いました。
☆エイズやハンセン病についてよく理解して、差別や偏見を無くしていくことが未来に繋がると思う。
☆一人の人間として全ての人は皆、平等であるということを私はこれから出会う人に伝え、また、そのように接していきたい。すごく勉強になりました。
☆素晴らしい劇でした。とても迫力がありました。ハンセン病の方の真実の声が聞こえてきたようです。「愛は勇気をくれる」素晴らしい言葉
☆とても感動しました。一人ひとりが正しい知識と勇気を持つことでとても大きな事ができるのではないかと感じました。
☆ハンセン病、エイズ問題をきちんと知って共に生きることへのメッセージ、元気をもらい、自分にできること、語っていくことを一歩ずつ始めていこうと思いました。
☆めっちゃめっちゃ良かったです。一人でも多くの人に今日のことを伝えたいです。まず家族に
☆すばらしい！こんなに感動したのははじめてかも知れません。人権に関することは難しい問題だと思います。これをきっかけに深く考えていきます。
☆素晴らしい劇でした。涙が止まりませんでした。私にも何かできる気がしてきました。
☆本当に感動でした。すごい泣けて、本当に良かったです。
☆自分のこと、身近なこととして捉え、私にできることをしていきたいです。愛を持って大切にしていきたいです。

III 指導の実際

ここでは、道徳の時間で導入に演劇教材を入れ、学習活動へと入っていった指導例を紹介する。

実践事例1中学校の実践より 那覇市立城北中学校教諭 砂川龍馬

1 単元名：感染症の予防「性感染症の予防・エイズ」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

性感染症の増加が問題となっている。背景として、インターネットや携帯電話の普及があげられる。どこからでも、誰でも性に関する情報を得ることができ、興味や関心の有無にかかわらず、迷惑メール等によって性行動をおおる情報が一方的に届くことも多い。このことが性意識や性行動にも影響を及ぼしている。そのため若者の性行動が活発化し、性における見えない連鎖によって感染

が広がっている。また、性感染症の多くは自覚症状がないものが多いため、さらに感染は広がっていく。

この深刻な現状にもかかわらず、生徒に対して性行為の意義や危険性、性について考えさせる時間や方法は十分に確立されていないと考える。この教材はエイズや性感染症について理解し、予防に向けての実践力の習得を目指した教材である。半年後、義務教育を修了し新たなステージへ踏み出す生徒達にとって自分自身の性についてみつめる機会を持つことは重要であり、今伝えなくてはならないことだと考える。

(2) 生徒観

性行為や男女の「性」について興味、関心が高いと感じるが、性感染症については「あまり知らない」「ほとんど知らない」と答える生徒が73%であり、性行為の意義や危険性についての正しい知識や理解が不十分であると考え。自己肯定感に関する項目では、「自分のことが好き」と答えた生徒はわずか8%であり、「あなたは自分がだれかから大切にされていると思いますか」という質問では、「そう思わない」「どちらともいえない」と回答した生徒は40%であった。

(3) 指導観

性感染症の予防は性行為抑制の指導や危険性を伝えるだけでは、生徒が自らのこととして捉えられず、実践力の育成にはつながらないと考え。私たちは両親の愛情、そして性行為によって誕生し、たくさんの人の支えによって今まで成長してきた。自らも将来、次の世代へ命のバトンをつないでいく役割がある。指導にあたっては、これらのことを認識させ、自分という存在は家族や社会の中のかげがえのない大切な存在であることを確認させたい。そして自分や大切な人を守るために、性行為の意義、性感染症の予防法について正しく理解することの大切さを伝えていきたい。

仲間の意見や思いを聞いて共感することや仲間や自分の新たな一面に気づくことが、「共に高め合う学習指導」につながるだろう。また、学習の場における安心できる雰囲気も重要な要素である。生徒に対する声かけ等にも配慮をしたい。

3 単元の目標

生徒一人ひとりが自分の存在の大切さに気づき、自分や大切な人を守るために性感染症やエイズについて正しい知識の習得と、選択すべき行動を判断できるようにする。

- (1) 日常生活や成長過程を振り返り、仲間や教師の意見を聞いて意欲的に学習に取り組もうとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自分や大切な人を感染から守るため、適切な意思決定と性行動の選択を判断できる。(思考・判断)
- (3) 性感染症やエイズについての知識を身につけ、その予防法を理解する。(知識・理解)

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
健康の保持増進のために必要な生活行動や感染症の予防について関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら課題をみつけ、意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進のために必要な生活行動や感染症の予防について、自分の知識や成長過程、経験、資料、仲間の意見や考えなどを基にして考え、選択すべき行動を判断できる。	健康の保持増進のために必要な生活行動や感染症の予防について理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。

【学習活動における具体の評価規準】

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する生徒への対応
ア 関心意欲態度	①性感染症やエイズについて <u>関心</u> をもち、資料を見たり、自分の日常生活や成長の過程を振り返りながら <u>積極的に</u> 課題を発見しようとしている。 ②教師や仲間と共に活動したり、学習資料を活用して、 <u>意欲的に</u> 課題について調べようとしている。	①性感染症やエイズについて、資料を見たり、自分の日常生活や成長の過程を振り返りながら課題を発見しようとしている。 ②教師や仲間と共に活動したり、学習資料を活用して、課題について調べようとしている。	①沖縄県や那覇市の感染者データから、課題について考えさせる。 ②仲間に協力を依頼し、共に課題について調べさせる。
イ	①性感染症やエイズについて、自分	①性感染症やエイズについて、自分	①事前調査アンケート

思考・判断	の知識や日常生活、成長の過程を振り返り、 <u>選択すべき行動を判断できる。</u> ②教師や仲間の意見、学習資料を基に、 <u>予想したり</u> 自分の考えや意見をまとめることができる。	の知識や日常生活、成長の過程を振り返り、問題点を見つけることができる。 ②教師や仲間の意見、学習資料を元に、自分の考えや意見をまとめることができる。	の結果から問題点を見つけさせる。 ②仲間に協力を依頼し、共に考えさせる。
ウ知知識・理解	①性感染症やエイズの要因とその予防の方法について理解し、 <u>日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。</u> ②性感染症やエイズについて、自他の生命を大切にすることが、性感染症やエイズを予防することに繋がることを <u>十分</u> 理解している。	①性感染症やエイズの要因とその予防の方法について、知っている。 ②性感染症やエイズについて、自他の生命を大切にすることが、性感染症やエイズを予防することにつながることを理解している。	①学習資料を復習させる。 ②「あなたは私にとって大切な存在であり、この学級にとっても大切な存在だ」ということを生徒に伝える。

5 評価の方法と内容

方 法	内 容
【観 察】	評価補助簿等を活用し、授業中の活動の様子や取り組む態度を評価規程に照らして評価する。
【ワークシート】	ワークシートに文章で記述させ、授業後に評価規程に照らして評価する。
【発 表】	評価補助簿等を活用し、授業中に発表をした生徒の発言を評価規程に照らして評価する。
【ミニテスト】	授業の学習内容の理解度をミニテストで評価する。

6 単元の学習指導の展開（全4時間）

	学習内容	学習のねらい	評 価		
			関	思	知
1	○感染症の原因と予防 (養護教諭と T.T.による指導)	◇感染症は主体と環境が関わり合って発症することを理解する。 ◇感染症の予防について理解する。 ◇免疫のしくみについて理解する。		○	○
2 本 時	○私たちの成長と性感染症	◇性感染症やエイズに対する理解を深めるため、これまで生きてきた成長の過程を知り、自他の存在の大切さに気づく。 ◇性的接触（性交）によって妊娠や性感染症等になる可能性があることを知る。	①		②
3	○性感染症の予防・エイズ①	◇性感染症やエイズについて、仲間と協力して課題をみつけ、その課題について調べる。	②	①	
4	○性感染症の予防・エイズ②	◇性感染症やエイズについて、仲間と協力して課題について調べたり、自分の考えをまとめようとする。		②	①

7 本時の学習指導（2／4時間目）

(1) 題材 「私たちの成長と性感染症」

(2) 本時のねらい

- ① 性的接触（性交）によって妊娠や性感染症等に感染する可能性があることを知る。
- ② 性感染症やエイズに対する理解を深めるため、これまで生きてきた成長の過程を知り、自他の存在の大切さに気づく。

(3) 本時の展開

過程	学習内容 及び 学習活動	教師の指導 及び 支援	評 価
導 入 7 分	1) 前時の復習を行う。 2) 本時のねらいの確認をする。	・ 前時で学習したことを思い起こさせ、ミニテストで間違いの多かった点を復習する。 ・ 座席をグループの形にする	
	1) 性感染症が増加している現状を	・ 表やグラフを見て、気づいたことをグルー	

展 開 36分	知る。 ☆主な性感染症の動向 (教科書 p.94 資料1) ☆ HIV 感染症・エイズの現状 (教科書 p.96 資料5) 2)ブレインストーミングを行う。 テーマ「なぜ、性感染症は増加しているのだろうか？」 3) 保健学習ノートに記入する。 4) 教具1 (右図)を見て これは何か考える。 5)「生命の誕生」のスライドを見る。 ☆受精→胎児の様子→出産 6) ワークシート1を発表する。 ☆ワークシート1は生徒の保護者を書いてもらった手紙(自分の誕生や今までの成長過程)を読んで、自分自身が保護者への思いを寄せて書いたもの。	プで話し合う。 ・性感染症や HIV・エイズが年度が進むにつれて増加していることに気づかせる。 ・教科書 p.94 資料1を見て、今後感染する可能性があることを理解させる。 ・ブレインストーミングの行い方を説明する。 ・記入した用紙はグループの箱に入れる。その後、出てきた意見をグループで確認し、発表を行う。 ・性行為のもう一つの側面について考える。 ・針の穴跡に気づかせる。 ・意見を出させ、針の穴跡の大きさが「人間の受精卵の大きさ」であることに気づかせる。 ・針の穴跡から現在の自分自身の大きさに至るまでの神秘を感じさせる。 ・ワークシート1は事前に提出させ、匿名で教師が代読発表する。 ・両親のやさしさと愛情で大切にされ成長してきたことを感じさせる。 ※学級には両親がそろっていない生徒も在籍する。その生徒への配慮は事前に行う。 ・自分は大切な存在であるということに気づかせる。 (BGMはかりゆし 58 のアンマー)	知 性的接触によって妊娠したり、感染する病気があることを理解する。 関 自分や仲間、家族の存在の大切さに気づくことができる。
終 末 7分	1) 本時のまとめをする。 2) 本時の感想を記入する。 3) 本時の感想を発表する。	・ねらいに迫った話をする。 ・性感染症に感染しない(予防する)ためにはどうしなければならないか考えさせる。 ・教具1に本時の感想を記入し、後日掲示資料として活用する。(無記名で記入させる)	

8 授業実践の考察

(1) 演劇が学習意欲につながったか

内容に関しては全員が「とても良かった」「よかった」と答え、学習意欲の向上や内容への理解が深まったことがうかがえる。

(2) 感染症のことが理解できたか

エイズの基礎知識や特に免疫との関係において事前と事後に調査したところ、95%までの基礎知識の定着が認められた。

(3) 自分や友人を大切にすること

「自分自身や友達を大切にすること、命を輝かせて生きることの大切さがよくわかりましたか」という問いに全員が肯定的な意見を示し、授業にも、楽しく学習できたことがうかがえた。

(4) 授業の主な感想

授業後の主な感想を表3で紹介する。

表3 授業後の生徒の主な感想

- | |
|---|
| <p>○ いろいろなことを考えさせられたし、性感染症に関し自分のまわりでも起こりえるということがわかった。自分の命のためにも次の命のためにも大切にしていかなければいけないと思った。</p> <p>○自分の周りの人がどれだけ自分のことを考えているかよくわかった。自分の親が自分を生んでくれたことにとても感謝した。これからも授業で学んだことを生かしていきたい。この一つの</p> |
|---|

命が大きな命。そして世界に一つだけの命。

- 性感染症のことをよく知ることができました。どうして感染症が増えていっているのかも班の人と考えることができて良かったです。
- この授業で性的接触を遊び半分ですることはどれくらいいいなく、影響が大きいのかがあった命の大きさを改めて感じた。
- 普段、あまり深くは学べないことを学んだ。自分や周りの人の幸せのためにもしっかり性感染症を考えていきたいと思った。
- いろいろ考えることが多かった。クラスメイトの手紙の感想を読んだり、子供ができるまでの過程を映像と音楽でみたり、とても感動した。親のことも深く考えさせられた。意識をしっかり持って生きていこうと思った。

IV まとめと今後の課題

これまでの継続した研究から導入で演劇教材を使用した人権教育を入れることで、生徒の心情に訴えることができ、授業後のアンケートでは小・中・高ともに95%以上の生徒が学習意欲の向上を感じたことが窺えた。さらに今回は、中学校におけるより有効な学習活動を紹介することができた。児童・生徒の感性や感情に訴えていく授業の展開は有効であり、そのことで自ら考え行動していこうとする力が養われていく。

また、学習内容に人権学習を取り入れることで、「性・エイズ」のみならず、「いじめ」などの集団が抱えている問題や個人が内面に抱えている課題などに積極的に取り組んでいくきっかけにもなり得る。しかし、学習したことを忘れることなく、より向上させていくためには継続した学習機会が必要になってくる。特に指導を必要とする生徒等への支援、学校全体で行う予防・啓発活動、さらには人権教育の充実まで取り組むべき課題にも大きなものがある。今後も継続的に研究を深め、生徒の変容を追跡調査しながらさらに良い教材作りに励んでいきたい。また、ここで使用した演劇教材は、県内小・中・高校生により6年間にわたり延べ300人近くの児童生徒が関わり演じられてきたものである（NPO法人 HIV人権ネットワーク沖縄制作・提供）。この教材が多くの方々との連携と協力によって制作できたことは、それ自体にも大きな意味と成果があると思う。今後もさらに連携を深め、各機関の専門家らと共に児童・生徒の健やかな成長に寄与していきたいと考える。なお、この研究は平成19年度に著者が行った「心を揺さぶり生きる力を育む性・エイズ教育の研究」を継続したものである。その研究において下記の教材をデータ化して作成してある。必要な方は県立総合教育センター教科研修班までご連絡頂きたい。

〔性・エイズに関する作成教材一覧〕

教材の内容とその活用方法

教材は演劇DVDとパワーポイントやワークシートを含んだCDからなる。DVDは、1時間の授業で活用できるようにしてある。また、パワーポイント教材は必要に応じて読み上げるシナリオも準備した。さらに道徳や総合学習などで関連する学習が行えるような補助教材も加えてある。

(1) 資料の内容（「資料活用の仕方」説明書添付）

- | | |
|-------------|---|
| ① 演劇DVD | 「新しい地球」城北小6年生出演
「光の扉を開けて」「希望の詩」「いつでも虹をみたいなら」
(高校生エイズフォーラム上演作品) |
| ② パワーポイント資料 | 「エイズを知る6つの扉」「沖縄県におけるエイズの実態」「ハンセン病資料」
「小・中・高校用各パワーポイント資料」「教師からみんなへのメッセージ」 |
| ③ ワークシート | 「ワークシート1～4」「毎日の生活点検表」 |
| ④ 学級指導用資料 | 「SHRなどで行う指導資料」 |
| ⑤ 補助教材 | 「沖縄愛楽園証言資料パワーポイント」 |
| ⑥ 掲示用資料 | 「人権標語50種類」(A4サイズカラー版) 「保健便り」 |

〈主な参考文献〉

- 木原雅子 2005 「10代の性行動と日本社会」 ミネルヴァ書房
林 達雄 2005 「エイズとの闘い」 岩波ブックレット
沖縄県立首里東高校 2005 人権教育研究紀要

